

対象年度		令和 2年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート														
事務事業名		小学校英語活動推進事業						予算事業名		小学校英語活動推進事業費								
予 算 科 目		会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令									
				10	01	03	0504	経常経費										
総合計画体系		4未来を担う子どもと地域を支える市民を育むまちづくり(教育・文						事業の区分		主要事業								
		4-1生きる力を育む教育環境づくり (学校教育)								重点事業								
		①教育内容の充実						担当課係等		学校教育課								
7外国語教育の充実						指導課												
事業期間		継続 (平成26年度～令和 2年度)																
【めざす姿 (意図・どのような状態になるのか)】								【事業開始のきっかけや他市の状況など】										
英語専門指導員との生きた英語活動を通して、英語への興味・関心を醸成し、英語嫌いを解消し、中学校英語へのスムーズな移行を図る。								2018年から段階的に先行実施される「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」を前倒しして、将来の結城市を担う国際人を育成する。										
【手段 (事業内容・どのようなことを行うのか)】								【対象 (だれに対して・何に対して行うのか)】										
英語専門指導員 (6名) が中心となって英語活動を実施する。小学校1・2年生は年10時間、3・4年生は年35時間を実施する。								英語専門指導員・小学校児童										
実施計画 60クラス×35週 研修打合せ 月3回×12ヶ月×9校								【事業をとりまく環境の変化】 2020年の小学校英語教育の完全実施に向けて、児童生徒や市民の英語に対する関心は高まっており、英語活動は大変意義のあることである。										
【令和 2年度 事業内容】				【令和 3年度 事業内容】				【令和 4年度 事業内容】										
小学生1・2年生が月1回、小学校3・4年生が週1回に実施する。また、教材準備や担当との授業打ち合わせの時間を研修時間として確保し、質の向上を図る。				小学生1・2年生が月1回、小学校3・4年生が週1回に実施する。また、教材準備や担当との授業打ち合わせの時間を研修時間として確保し、質の向上を図る。				小学生1・2年生が月1回、小学校3・4年生が週1回に実施する。また、教材準備や担当との授業打ち合わせの時間を研修時間として確保し、質の向上を図る。										
■事業費																		
				H30年度		R01年度												
財 源 内 訳	国	庫	支	出	金	0	0											
	県		支	出	金	0	0											
	地		方		債	0	0											
	そ		の		他	0	0											
	一		般	財	源	3,740	4,059											
歳入計 (千円)				3,740		4,059												
歳 出 内 訳	節 (番号 + 名称)				金額 (千円)		金額 (千円)											
	08	報償費			3,166		3,500											
	11	需用費			549		530											
	12	役務費			25		29											
歳出計 (千円) (A)				3,740		4,059												
伸び率 (%)						8.52												
備考	総合計画 112ページ 予算書 157ページ																	

平成30年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		H30年度	R01年度	R02年度
活動 指標	小学校派遣日数（1校あたり）	日	目標	35.00	35.00	35.00
			実績	35.00	0.00	0.00
	小学校実施時間数（1校あたり）	時間	目標	150.00	150.00	150.00
			実績	150.00	0.00	0.00
成果 指標	総契約時間数	日	目標	2,140.00	2,140.00	2,140.00
			実績	2,140.00	0.00	0.00
	総活動日数	時間	目標	315.00	315.00	315.00
			実績	315.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	市民の注目度が高く、必要性は高くなっている。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	行政以外にできない事業である。
	手段の妥当性	A 妥当である	課題を出しながら検討していきたい。
効率性	コストの効率性・人員効率	A 改善の余地はない	一般的と思われる。
公平性	受益者の偏り	A 偏りは見られない	広い範囲に便益が提供されている。
有効性	成果向上の余地	A 上がっている	英語に対する興味・関心は高まっている。
進捗度	事業の進捗	A 順調である	検討しながら改善していきたい。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
2020年小学校の英語教科化を前倒しして、本市独自に実施してきた意義は大きい。本事業をより意義のある事業にするために、研修を行い英語専門指導員の質の向上を図る。全校体制で積極的に取り組めるよう支援していきたい。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
本市独自のこの事業によって、将来の結城市を担う国際人を育成するために、その成果を可視化できる具体的な方策によって検証する必要がある。また、「外国語指導助手派遣事業」と連携した取組を模索していきたい。			

■方向性

1 次評価（1 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☒ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了	
改革・改善の具体的内容（改革案・実行計画） この事業の成果を図りながら、継続していきたい。	
2 次評価（2 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了	
企画調整会議の意見・考え方（1 次評価者と同じ場合も記入） 上記評価のとおり。	